

令和7年度学校評価結果

桶川市立桶川西小学校
校長 田嶋 貴子

○ 目指す学校像（基本方針） 「子供、保護者、地域に信頼される学校」づくりを目指す

*評価基準について

・A 4点、B 3点、C 2点、D 1点で集計し、

平均3.4以上はA、2.5以上3.4未満はB、2.0以上2.5未満はC、2.0未満はDとしています。

領域	No.	評価項目	自己評価		学校運営協議会における評価
			評価	説明及び学校の考え	
組織・運営	1	学校教育目標達成に向けて、組織的に取り組んでいるか。	B	「かしこく ゆたかに たくましく」の学校教育目標を達成するために、教職員が一丸となり、学年・校務分掌の組織を生かし、積極的に教育活動に取り組んだ。	運動会の種目を検討してほしい希望が保護者の方々から寄せられています。競技時間が長くなることは想定されますし、昨今の暑さの中でどうかと考えさせられます。また、先生方の働き方にどのように影響が出るのか、いろいろな視点から検討しなければならぬかと思えます。
	2	PDCA サイクルのもと学級経営や教科経営・分掌経営にあたっているか。	B	実施した行事（入学式・運動会・持久走大会等）は、今後よりよくしていくために見直し・改善することを職員で共通理解し進めている。9月1日の2学期始業に合わせた次年度に向けた教育課程の編成を行っている。	
学習指導	1	基礎・基本の定着を図るために児童の実態に基づいて授業改善（少人数指導・TT指導等）に努めているか。	B	特に算数科において教育指導補助員を活用し、TT指導を充実させるなどの工夫を行った。第6学年においては、一部少人数指導を実施し個に応じた学びを行うことができた。	少人数指導の導入は大いに賛成であるが教員数が問題となっていることがよくわかります。ICT機器が積極的に活用されており、授業自体は非常に分かりやすくなっています。児童一人一人が自分の意見や考えをもち、積極的に授業に参加できる形をぜひ検討してほしいです。
	2	児童に学習規律を身に付けさせ、学習成果を上げているか。	B	教育指導補助員等を効果的に活用し、個別対応が必要な児童が落ち着いて話を聞くことができる環境を整え、学習成果が上がるよう指導してきた。学級間での差異が見られた部分もあったので、同一歩調で児童に指導できるよう、教職員間の共通理解を深める必要がある。	
	3	学校課題「自己肯定感」を高める学習活動に取り組むことができているか。	B	学校課題研究2年目として、3回の校内授業研究会（7授業）を実施。併せて、講師の先生を招き、『自己肯定感』を育む体育科の指導についてご講義いただき、各職員が、日常の授業で、児童の自己肯定感を高めることを意識して、日々の授業に臨むことができた。	
生徒指導・教育相談	1	児童が進んで挨拶、正しい言葉遣いができるよう取り組んでいるか。	B	朝の挨拶運動（代表委員会）や生徒指導月間（教員によるあいさつや見守りの取組）を行ってきた。挨拶や正しい言葉遣いについて、教師の言動が、児童にとっての言語環境になることを、職員の共通理解として、教師が率先垂範の意識で引き続き取り組んでいく。	朝の登校では、元気よくあいさつができています。子ども達は地域の一員であることとその中で暮らしていることを理解してもらえるような家庭教育も必要だと思えます。不登校や不登校傾向の子供へは、学校か家庭の問題か分からないですが、引き続き寄り添った対応をお願いします。
	2	日常観察や教育相談を通じて、いじめや不登校の早期発見、解消に努めているか。 （いじめ防止対策推進法に係る評	B	学期に1度行う学校生活アンケートの結果などから各児童への対応を行ってきた。また、不登校や登校渋りの児童についても校内で複数の職員・管理職で情報共有し、関係機関と連携や学習支援室の活用を進め対応をしている。 職員の評価平均値が3.19という評価に対し、保護者からの評価平均値は	

		価)		3.00にとどまっている。児童・保護者の思いに寄り添い、今後も組織的に取り組んでいく。	
健康教育	1	児童の体力向上に向け、体育や体育朝会、外遊びの奨励等に積極的に取り組んでいるか。	B	体育朝会や縄跳び検定の取組など、出来ることを工夫して行い、体力の向上を図った。本年度、埼玉県の小学校体育授業研究会を実施し、職員の指導力向上が図れた。	学校外で外遊びをしている子が少ない影響で走る事、ボール投げ、なわとびなどあまりできない子が多いという理由もあるのではないかと思います。
	2	児童に栄養のバランスのとれた食事の大切さを理解させ、食に関する意識を高めようとしているか。	B	毎日の給食を学校HPへ掲載し、食に対する意識を高めた。また給食の時間に「今日の給食」について放送し、児童の栄養についての意識づけを行い、関心を高めることができた。	
学習環境	1	計画的・継続的に掲示物を整え、児童の学習環境を整えているか。	B	児童の作品(硬筆・図工作品・書きぞめ等)を時期に応じて掲示し、豊かな感性の育成に繋がっている。教室掲示についても、学習コーナーを設けるなど、児童が既習事項を確認しやすい環境を整えることにより児童の資質・能力の育成に繋がっている。	大規模改修が必要な校舎であると思います。CSも市教委に問題提起します。点検ばかりで改修等されないのであれば、意味がないと思います。
	2	施設設備の点検を実施し、危険箇所の改修に努めているか。	B	月一回の安全点検と臨時の点検で、修繕の必要箇所について把握し、速やかに修繕依頼を教育委員会へ提出している。併せて、古く活用していない備品等の廃棄を進め、備品室の整理を進めた。	
教職員の資質向上	1	校内等の研修を充実させ、教員一人一人の資質の向上を図っているか。	B	昨年度より学校の課題研究のテーマとして「自己肯定感」を高めることを掲げ方向性を共有し、取組を行った。令和8年度の発表会に向けて、次年度以降さらに研究を深める。	発表した内容が公開されるとよいと思います。保護者アンケートでは授業が楽しいか分かりやすいかの評価でCがかなり多い。授業が楽しくない、分からないと思っている児童が多いのは問題かなと思う。学習指導領域の①に共通するところと思うので、何らかの改善や工夫が必要だと思います。
	2	教職員は、倫理確立委員会等を活用し、服務規律の向上に努めているか。	A	倫理確立委員会メンバー(教頭を中心とした各学年職員のメンバー)が順番に指導者となってボトムアップによる研修会を行った。職員一人一人が、自分事として捉え、教育公務員としての自覚を深め、日々の教育活動に向き合っている。	
家庭・地域との連携	1	学校だより、学年だより等で、保護者や地域に適切な情報発信をしているか。	B	学校だより、学年だよりの発行やホームページの更新により、学校の情報発信を行うことができた。職員は3.33、保護者は3.19という評価だった。保護者との数値の開きがある点について、電話や連絡帳等での個別の連携について考えている。その差を埋めるため、さらにコミュニケーションを充実させる。	アンケートの回収率アップは素晴らしいと思います。声を拾うためにも進めていただけるとよいと思います。広報と防犯は表裏一体というのは理解しているが、地域の中の学校という点でもう少し開か入れた学校を目指して欲しいです。
	2	授業参観、家庭訪問や個人面談を適切に行っているか。	B	職員は3.31であったのに対し、保護者は3.03に留まった。保護者のニーズを受け止め、学校全体として、教育相談日のさらなる周知とともに、可能な対応を今後検討していく。	